

チャオビフユエダシャクが糖蜜トラップで吸蜜

高橋弘樹

筆者はフユシャク類の一種であるチャオビフユエダシャク *Phigaliohybernia fulvinfula* Inoue, 1942 の糖蜜トラップでの吸蜜を確認したので報告する。

【確認記録】

2♂, 兵庫県相生市矢野町瓜生(羅漢の里公園内), 12. III .2022.

筆者は2022年3月5日, 羅漢の里公園(兵庫県相生市矢野町瓜生)において糖蜜トラップを実施した際, 日没直後に公園内車道沿いのシダの葉に霧吹きで糖蜜(100%リンゴジュース1:清酒0.5:米酢0.5)を散布しところ, 10分も経たないうちにチャオビフユエダシャク2♂が飛来して葉上に静止し, 1時間ほどその場に留まっているのが確認できた。さらに少し離れたモミジの樹幹の糖蜜を噴霧した部分にも1♂が止まっていたため不思議には思ったが, どちらも元々本種が頻繁に飛翔している場所だったのでこの日は詳細な観察も撮影もしなかった。

3月12日にも同地での糖蜜トラップを実施し, 18時過ぎに同じ配合の糖蜜を同じシダに散布したところ, 19時33分に2♂が葉の表面に静止していた。カメラを使って拡大すると口吻を葉上に伸ばして盛んに吸蜜しているのが確認できたので, 同行者(石川栞奈氏)とともに撮影した(図1, 図2)。その後20時06分に見回った際には1頭は同じ場所に留まり, 1頭は葉裏に移動してどちらも吸蜜を続けていたので再び撮影したが, その際に1頭が照明に反応して飛び去ってしまった。もう1頭はその後も吸蜜を続けていた(図3)が, 22時44分の撤収時にはいなくなっていた。なお, シダの葉では他にカシワオビキリガ, プライヤキリバ, トビモンアツバ, キノカワガが吸蜜していた。

中島(2017)はフユシャク類(フユシャクガ)の定義の一つに「口吻は短縮して, 食餌しない場合が多い」を挙げており, 成虫が食餌しないわけではないようだが, 文献としてはトギレフユエダシャク(当時のトギレエダシャク)3♂が糖蜜に飛来した報告(岸田, 1975)しか見つけられなかった。なお, 本種の口吻はやや縮小するが, 近縁属より長く残っている(岸田, 2011)。

末筆ながら, 資料を提供していただいた阪上洸多氏に御礼申し上げる。

○参考文献

岸田泰則・宮嶋顕司, 1975. 1975年春に糖蜜採集で得た蛾. 誘蛾燈, 61:79-83

岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I, 176pp.

学研教育出版.

中島秀雄・小林秀紀, 2017. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 11 日本の冬尺蛾. 152pp. むし社

(Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市)



図1 2022年3月12日 19時35分



図2 2022年3月12日 19時36分



図3 2022年3月12日 20時08分